

薬理学 B (Pharmacology B)					担当教員	
					教授	大矢 進
					准教授	奈邇 健
					助教	藤井 正徳
科目群	開講期	授業形態	単位数	必修等		
薬学専門教育（講義）	2年次 後期	講義	1.5単位	必修		

【概要】

薬理学は、「生体内外の化学物質と生体の相互作用を、種々の研究方法により個体、臓器、組織、細胞、分子のレベルを貫いて総合的に研究し、さらに創薬・育薬などの薬物の疾病治療への応用を視野に入れ、薬物治療の基盤を確立する科学」である。本講義では、生理学、解剖学、生化学等の知識を基盤として各種薬物の薬理作用、作用機序、適応、主な副作用について学習する。

【授業の一般目標】

薬理学 B では、「循環器系」、「腎・泌尿器系」、「中枢神経系」に作用する薬物の作用機序、適応症および主な副作用についての詳細な知識を理解する。

【準備学習(予習・復習)】

学習内容が多いため、教科書や事前に配布した補助教材（プリント）を予習することを推奨する。また、解剖学、生理学で学習した関連知識を復習すること。講義中に実施する演習問題等で学習内容の達成度を各自確認し、教科書・プリントを復習することが重要である。

【学習項目・学生の到達目標と、対応するSBOコード】

No	学習項目	担当教員	学生の到達目標	SBOコード
1	循環器系に作用する薬物 (1)	大矢	心臓・血管系の生理機能の概要について説明できる。 心臓・血管系に作用する主な生体内物質を列挙し、それらの病態生理学的役割について説明できる。	C13-(2)- -1,2,3,4
2	循環器系に作用する薬物 (2)	大矢	代表的な心不全治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13-(2)- -2 C13-(2)- -1
3	循環器系に作用する薬物 (3)	大矢	代表的な抗不整脈薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13-(2)- -1 C13-(2)- -1
4	循環器系に作用する薬物 (4)	大矢	代表的な虚血性疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13-(2)- -3 C13-(2)- -1
5	循環器系に作用する薬物 (5)	大矢	代表的な高血圧治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13-(2)- -4 C13-(2)- -1
6	腎臓・泌尿器に作用する薬物 (1)	大矢	腎臓機能の概要を説明できる。 利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。	C13-(3)- -1 C13-(3)- -1
7	腎臓・泌尿器に作用する薬物 (2)	大矢	利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。	C13-(3)- -1 C13-(3)- -1
8	中枢神経系に作用する薬物 (1)	奈邇	代表的な統合失調症治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13-(2)- -5
9	中枢神経系に作用する薬物 (2)	奈邇	代表的な抗うつ薬・抗躁薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13-(2)- -5
10	中枢神経系に作用する薬物 (3)	奈邇	代表的なパーキンソン病治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13-(2)- -4
11	中枢神経系に作用する薬物 (4)	奈邇	代表的な中枢興奮薬、中枢性筋弛緩薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13-(2)- -4,5
12	中枢神経系に作用する薬物 (5)	奈邇	代表的な抗てんかん薬、抗不安薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13-(2)- -4,5
13	中枢神経系に作用する薬物 (6)	奈邇	代表的な催眠薬、全身麻酔薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13-(2)- -1, 2
14	中枢神経系に作用する薬物 (7)	藤井	代表的な麻薬性鎮痛薬、解熱鎮痛薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13-(2)- -3
15	総括・まとめ			

(書名)

(著者・編者)

(発行所)

教科書 最新基礎薬理学
参考書 NEW薬理学

竹内孝治、岡淳一郎
田中千賀子、加藤隆一

廣川出版
南江堂

【成績評価方法・基準】

定期試験の成績を主として評価する。（但し、講義の開始直後と終了直前に出欠を確認する。）

【備考】(担当教員に対する質問等の連絡方法)

薬理学分野（躬行館5階）まで来てください。